

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2017年11月16日

No.5

組合：会社の不誠実な対応に組合員は失望している！職場の組合員の苦勞と努力に応えよ
会社：申し入れに基づく議論で認識を新たにしたら改めて社内で議論する

～申第4号「2017年度年末手当の再申し入れ」交渉報告～

中央本部は、回答指定日である本日まで交渉を積み上げてきましたが、会社は一貫して組合員のこれまでの努力や苦勞に対して不誠実な対応に終始したことから、本日20時40分より緊急に申第4号「2017年度年末手当の再申し入れ」に基づく団体交渉を行ないました。主な内容は以下の通りです。

- (1) 本日の回答指定日にむけ、これまで交渉を積み上げてきた。交渉において我々の主張に対して会社はそのことは受け止めると言いながら、この間の会社の対応は不誠実なものであると言わざるを得ない。
- (2) 第4回交渉で出された考え方は、この間の組合員の努力や苦勞に応える回答を示されていない。回答指定日の現時点において、このことは問題である。改めてこれまでの苦勞に応える回答を示すこと。
- (3) 会社は計画達成にのみこだわり、制服や看板のリニューアルについてもスケジュール的に進めるなど、職場で働く組合員に対して神経を逆なでにするような言動を繰り返している。経営陣と職場で働く組合員の認識のズレは非常に大きく、労働組合として危機感を持っている。組合員の生の声に経営陣は耳を傾けるべきだ。
- (4) これまで我々は責任組合として、様々な施策に真摯に向き合い努力し、苦勞もした。経営陣と我々の認識に大きな乖離がある。組合員の想いを真摯に受け止め認識を改めること。

中央本部の指摘に対して会社は、以下の通り回答しました。

- (1) この間の交渉で貨物労組が主張している項目については、経営陣としても認識しているが、会社の現状を考えれば容易に上積みできる状況にない。その中で会社として最大限誠意をもって考え方を示し、誠実に対応をしてきたと認識している。
- (2) 制服のリニューアルや看板の取替については、年末手当交渉と時期が重なったものであり、会社としても必要な施策であると考えている。決して社員を蔑ろにしているわけではない。
- (3) 鉄道事業部門の黒字継続は必達目標であり、収入確保にむけて営業を最先頭に努力している。一方で年末手当について社員のこれまでの想いに配慮して考え方を示してきた。不誠実と受け止められては残念である。
- (4) 貨物労組とはこれまで時に対立をしながらも、共にやってきたということは認識している。交渉を通じて認識を深めた。労使間で食い違いもあるが議論をし、溝を埋めていきたい。

組合員のみなさん！この間、全組合員が一丸となって安全問題をはじめ欠員対策、増収施策、災害対応に汗を流してきました。このような状況下で組合員の努力を足蹴にする対応を認めるわけにはいきません。交渉経緯を踏まえ、これまでの苦勞に報いる回答を示すべきです。

組織の全力を挙げて、会社の不誠実な対応に職場から抗議の声を上げましょう。中央本部は、その最先頭で取り組むこととします。

以上